

## 未破裂大型近位部内頸動脈瘤の治療法に関する全国実態調査に関する研究

### 1. 研究の対象

本院において、2012年1月1日より2016年12月31日の間に初回治療として治療を行った未破裂大型近位部内頸動脈瘤の方を対象としています。

### 2. 研究目的・方法

後交通動脈分岐部より近位の内頸動脈は頭蓋底骨内で海綿静脈洞を貫通し、前床突起の近傍から頭蓋内に現れるため、この部位に発生する大型脳動脈瘤は、単純なクリッピングやコイリングのみでは閉塞できない場合も少なくありません。そのため、外科治療においては頭蓋底外科技術や血行再建術の応用が、また血管内治療ではバルーンアシストやステントなどの併用が行われています。しかしながら、これらのモダリティを駆使しても、治療に難渋することや合併症を生じることが稀ではないと思われませんが、本邦の現状は明らかではありません。加えて、近年、血流の整流化により動脈瘤を閉塞させるフローダイバーターが新しい治療法として本部位の動脈瘤に対して認可され、母血管閉塞でしか根治し得なかった脳動脈瘤も、低侵襲的に根治できる可能性が高まっています。現在、この器具の使用は指定施設に限定してはいるものの、革新的治療であり、すでに本邦の本治療の一翼をになっており、この新治療も加えた全体像の解明も多いに待たれるところです。このような現状に鑑み、本部位の大型動脈瘤の治療適応、治療手段ならびに治療成績に大きな変化が生じていることが予想されますが、その実態は明らかにはなっていません。本研究では、全国の脳神経外科主要施設に対してアンケート調査をし、現在の未破裂大型近位部内頸動脈瘤の治療法及び治療成績の実態を明らかにし、今後の治療指針に資するデータを提供することを目的としています。

実際の方法についてですが、未破裂大型近位部内頸動脈瘤における患者背景、臨床症状、放射線学的所見、治療法、合併症、転帰等に係るアンケート調査を行い、解析します。エクセルで作成した入力フォームを用いて、アンケート項目の入力を施行します。さらに主要評価項目ならびに副次評価項目について評価します。以上から、未破裂大型近位部内頸動脈瘤の治療実態を明らかにし、これを踏まえ、新たな治療戦略の確立に資する治療方法を考察し、学会発表や論文発表として世界に発信いたします。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

【主要評価項目】脳動脈瘤の閉塞状態（破裂および再発）

【副次評価項目】母血管の狭窄、患者転帰、周術期合併症、再治療の有無です。

#### 4. 外部への試料・情報の提供

患者背景、臨床症状、放射線学的所見、治療法、合併症、転帰等に係るアンケート調査（別紙）を行い、研究事務局へデータ送付して解析します。

#### 5. 研究組織

##### 【研究代表者】

所属：山梨大学医学部 脳神経外科学講座 職名：教授 氏名：木内博之

##### 【研究事務局】

山梨大学医学部脳神経外科学講座 病院准教授 金丸和也

〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110

山梨大学医学部 脳神経外科学講座

Tel：055-273-6786

##### 【共同研究機関】

本邦の脳神経外科を標榜し、脳神経外科手術を行っている研究機関

##### 【研究協力機関】

本邦の脳神経外科を標榜し脳神経外科手術を行っている施設

##### 本学における実施体制

主任研究者 脳神経外科 講師 大谷直樹

分担研究者 脳神経外科 教授 森健太郎

分担研究者 脳神経外科 准教授 和田孝次郎

分担研究者 脳神経外科 講師 豊岡輝繁

#### 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

脳神経外科講座 大谷直樹

〒359-8513

埼玉県所沢市並木3-2 防衛医大脳神経外科講座

TEL) 04-2995-1511

FAX) 04-2996-5207